

淡路町知財研究会 2017年8月26日



「御木本幸吉の特許戦略」

弁理士 永井 隆

キーワード

- 特許庁十大発明家で異色の存在
- 海産物商から養殖真珠へ
- 特許取得、真珠事業に専念
- 特許による独占化
- 激しい特許攻防戦
- 特許は非侵害
- 真球真珠の開発(見瀬、西川)
- エジソンに賞賛される
- 大日本真珠組合による特許管理
- 世界的事業へ





特許庁 十大発明家で異色の存在

- 1. 豊田佐吉(木製人力織機、自動織機) 技術者(小学校卒)
- 2. 御木本幸吉(養殖真珠) ? (学歴なし)
- 3. 高峰讓吉(タカチアスターゼ、アドレナリン) 学者(帝大卒)
- 4. 池田菊苗(グルタミン酸ナトリウム) 学者(帝大卒)
- 5. 鈴木梅太郎(ビタミンB1、ビタミンA) 学者(帝大卒)
- 6. 杉本京太(邦文タイプライター) 技術者(電信技術養成所卒)
- 7. 本多光太郎(KS鋼、新KS鋼) 学者(帝大卒)
- 8. 八木秀次(八木・宇田アンテナ) 学者(帝大卒)
- 9. 丹羽保次郎(NE式写真電送機) 学者(帝大卒)
- 10. 三島徳七(MK鋼) 学者(帝大卒)



略歴

- 安政5年志摩国生まれ(1858年)
- 明治10年代 海産物商、鳥羽町会議員等 20歳代
- 明治21(1888) 養殖真珠研究開始 30歳
- 明治29(1896) 特許取得(2670号)、真珠事業に専念 38歳
- 明治32(1899) 銀座に御木本商店を開く 41歳
- 明治38(1905) 明治天皇に拝謁 47歳
- 大正13(1924) 宮内省御用達、貴族院議員に勅撰 66歳
- 昭和2(1927) エジソンと会見 69歳
- 昭和29(1954) 逝去、勲一等瑞宝章 96歳



真珠養殖への道

- 真珠は儲かる
- 天然は収穫が不安定→養殖が出来ないか
- 学者の指導を仰ぐ
 - 東京帝大 箕作佳吉（みつくりかきち）博士ら
 - 産学連携のはしり

特許第2670号(1896)

- 御木本、初めての特許(成功率1~2%)
→ 養殖事業に専念
- 他者からの出資を拒否
→ ひも付きになるのを懸念
- ただし、本特許は半球真珠(真球は未完成)





特許請求の範囲(クレーム)

- 1. ガラスか貝殻、又はこれらと等しき用をなす物質で、球又は一か所切落した球を作り、
2. 食塩で磨くか、又は濃厚食塩水に浸して、
3. 生きた真珠貝の外殻膜と貝殻との間に挿入して、真珠素質を被らせる方法



明治天皇への拝謁

- 日露戦争後に伊勢神宮に行幸(明治38)
- 御木本の大言壮語

「必ず真球真珠養殖を完成してお見せします。」

「世界中の女の首を真珠でしめて御覧にいます。」

→前者は「西川藤吉」(娘婿)が完成

→後者は世界進出で達成



特許による独占を狙う

- 競業者を告訴（特許侵害刑事事件）明治39（1906）
→三重県の北村幸一郎ら3名
- 特許制度制定（明治18）から、僅か20年だが、積極的な権利行使
- 当時、特許出願1200件、登録170件
- 相手も必死の反撃



侵害事件の攻防

- 相手側の反論

クレーム要件1,3は公知、イ号は要件2を充足せず
特許局への「権利確認審判」、「無効審判」

- 御木本側は大物弁理士を起用
内村達次郎(元特許局)

- 一審(安濃津地裁)は有罪(懲役3月)、無効審判も却下

→御木本の勝利 明治44(1911)



侵害事件の攻防—続き1

- 御木本は特許存続期間の10年延長を画策
明治42年特許法改正の規定
「存続期間は15年であるが、重要な発明であって、
権利の存続期間中に正当な理由によって相応の利益
を得られなかった場合、延長できる。」



侵害事件の攻防—続き2

- 相手側は控訴(名古屋控訴院)
- 判決は、逆転無罪 明治45(1912)
→要件1,3は公知であり、被告の方法は要件2を用いていない。
- 検察側は大審院に上告
- 判決は、上告棄却 大正元年(1913)
→無罪が確定



侵害事件の結末

- 2670特許は価値なし
- 真珠養殖業の「営業の自由」の確保
- 真球真珠養殖完成への道
 - 見瀬辰平（みせ たつへい）、西川藤吉（とうきち）、
桑原乙吉（おつきち；歯科医）、
藤田輔世・昌世（東京帝大）ら



真球真珠養殖法の開発-1-1

- 見瀬辰平 三重県生(1880~1924)

養父が海外真珠に興味を持ち、その影響
三重県水産試験場に指導を仰ぐ

漁業権の認可申請に、御木本の圧力

特許出願 (明治40年(1907)5月13日出願)

→特許38318号 西川特許と抵触

事業家としては失敗

真球真珠養殖法の開発-1-2

- 見瀬辰平





真球真珠養殖法の開発-2-1

- 西川藤吉 大阪府生(1874~1909)
 - 東京帝大で水産動物学専攻(箕作教授の弟子)
 - 御木本の娘と結婚(御木本養殖場で研究)
 - のち、淡路の自家実験所と三崎の
東京帝大臨海実験場で研究
 - 特許出願 (明治40年(1907)10月24日出願)
 - 特許30771号 見瀬特許と抵触
 - 癌のため35歳で死去

真球真珠養殖法の開発-2-2

- 西川藤吉





真球真珠特許の抵触問題

- 当時は、先発明主義
→ 発明完成日が基準
- 最終的に見瀬が譲歩
 1. 西川の病気悪化で生存中の解決が必要
 2. 東京帝大及び大日本水産会よりの調停交渉
 3. 東京帝大等の権威を重んじた
 4. 紛争の継続が国家的事業の発展を阻害する



西川特許請求の範囲(クレーム)

1.一の貝よりその真珠袋を構成すべき細胞及びこれに接続せる組織を含める貝体の一片を切り取り、これとともに適当なる核をその貝又は他の貝の組織中に挿入し以て真珠を形成せしむる方法。

2.一の貝より真珠袋を構成すべき細胞及びこれに接続せる組織を含める貝体の一片を切り取り、これをその貝又は他の貝の組織中に挿入し以て真珠を形成せしむる方法。

西川特許登録

- 特許30771号

大正6年2月15日特許(1917)

特許権者: 西川真吉 (藤吉の息子)





海外進出 現地の妨害

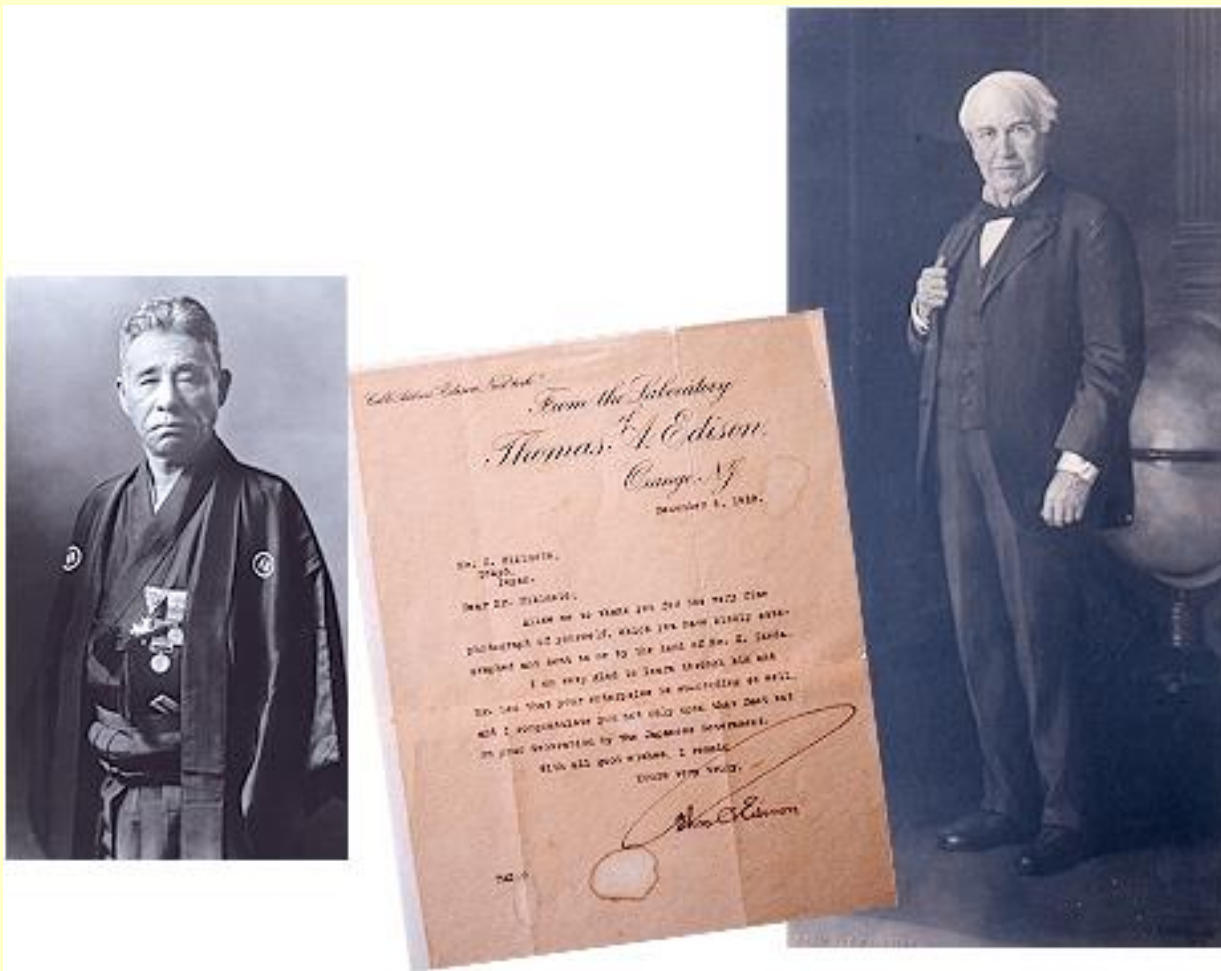
- 真球真珠は模造品との妨害 大正10年(1921)
天然物を扱っているロンドン、パリの宝石商
に打撃
→学者の鑑定、関係官庁への提訴
逆に、養殖真珠の価値が高まる。
養殖真珠も天然真珠と差異がない。



エジソンとの会見1

- 欧米視察でエジソンと会見 昭和2年(1927)
エジソンにほめられる
「俺のところでは、ダイヤモンドと真珠だけは
化学的に出来なかった。
貴様は、真珠を動物学で作って、西洋に先駆
けたんだから偉い。」

エジソンとの会見2





大日本真珠組合

- 西川特許を実施するための組合 昭和3(1928)
真球特許を組合員に許諾する
→いわゆるパテントプール
御木本が特許を実施するための策謀



御木本幸吉とは

- 発明家？

特許制度を巧みに利用

発明家であり、卓越した事業家である！

商標

- 全238件の商標権所有
- 最も古い

第33844号 明治41年登録(1908年)存続中

御木本製薬の社章で使用中





参考文献

- 御木本幸吉 大林日出雄 吉川弘文館(1971年)
- 真珠の発明者は誰か? -西川藤吉と東大プロジェクト-
久留太郎 勁草書房(1987年)



ご静聴ありがとうございました。